

令和8年度

# 学校経営方針

京都市立高野中学校

## I 学校目標

「信頼される人への一步を仲間とともに踏み出せる学校にする」

～聴かせてあなたの思い、聴いて私の声～

生徒自身が日々成長する場として学校をとらえ、イメージするなりたい自分そして通いたい学校像へ進む過程において、生徒および教職員が共に目指す旗印としてR8年度より新たに「学校目標」を設定した。のちに示す「学校教育目標」は、「学校目標」を達成するために必要となる資質・能力を明確にして取り組む教職員の目標として位置付ける。

## II 学校教育目標とめざす姿

### (1) 教育目標と資質能力

#### 「他者とのつながりを喜びとする生徒の育成」

##### < 身につけたい資質・能力 >

- ・つながる力 = ・肯定的に自己を理解し、感情や行動をコントロールすることができる。
  - ・他者を受け入れ、協力・協働して主体的に参加することができる。
  - ・相互にやり取りをしながら、意欲的に他者と関わるすることができる。
- ・コミュニケーション力 = ・考えや立場の違いを理解し、自分の考えを論理的に話すなど表現することができる。
  - ・相手の考えを理解し、受け入れるなどして、相手とのつながりをさらに深めることができる。

### (2) 目指す生徒像

- ・ちがいを認め合い、つながり、支え合い、高め合う生徒
- ・相手を思い、自ら行動できる生徒
- ・何事にも粘り強く努力できる生徒

## III 学校経営方針

### (1) 目指す学校像

- ・生徒が主体となり、教職員が伴走者となる風土が学校
- ・「なりたい自分」と「確かな学び」をつなぐ学校
- ・保護者や地域から信頼される学校
- ・生徒・教職員にとってのウェルビーイングな学校

## (2) 目指す教職員像

- ・生徒を一つの枠にはめようとすることなく、「自分らしさを探究する過程」を支援することを大切にし、生徒の伴走者であろうとする教職員
- ・公教育の使命を意識し、情熱と使命感を持って授業改善に取り組み、謙虚さをもって保護者や地域と関わることができる教職員
- ・生徒にとって身近な大人であることを意識し、自らが主体的に学び続けようとする教職員
- ・自らが多様性を受容する力を身に付け、これまでの経験や組織文化そして学校文化にともなう概念から一線を画し、生徒の変容のために自らが変わろうとする教職員。できない理由を捜すのではなく、可能とする工夫を凝らす教職員
- ・意欲と活気にあふれ、共に語り合い、仕事の厳しさや楽しさを共有し、協力し助けあう教職員集団

## IV 具体的取組

- ・主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善に真摯に取り組む。
- ・個別最適な学びと社会につながる協働的な学びを往還させることを意図し、指導の個別化、学習の個性化を推進するとともに ICT を効果的に活用することに一体となって取り組む。
- ・教育活動全般において探究的な活動や課題解決学習を取り入れ、主体的に学ぶ姿、粘り強く課題に取り組む姿の実現をめざす。
- ・学習者目線に立ち、生徒が自分らしい生き方を探究するための機会となりうる教育活動を展開する。
- ・「いのち」の大切さや人権尊重の理念を正しく理解するとともに、「子どもの命を守りきる」教育活動を全教職員で進める。
- ・授業や体験活動などの多様な教育活動の中で、他者とのつながりを実感する、または、その素晴らしさを感じ取ることができる機会を創造する。
- ・人権教育の4つの視点（「人権としての教育」「人権を通じた教育」「人権についての教育」「人権のための教育」）を意識し、様々な教育活動において人権教育を行う。
- ・道徳教育を要とし、「考え議論する道徳」の実践を通して、子どもたちの相互理解を深め、心豊かな人間を育成する。
- ・学校だよりやHP、学校公開などを積極的に活用し、教育活動を地域、保護者に発信する。
- ・5月以降の各月最終月曜は5限で放課、部活動なしとし、その他の月曜も可能な限り5限での放課をめざし、生徒と教職員のゆとりの創出をめざす。
- ・校務の効率化、改善の視点をもって業務の企画運営を行い、働き方改革を推進する。
- ・アンケートや学校評価等を軸としたPDCAサイクルを確立させ、教育課題を明確にしながらか改善を図っていく。

## V 知・徳・体を一体的に育てる具体的取組

### (1) 「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

#### 重点目標

- ・組織的及び継続的な授業改善
- ・総合的な学習の時間を改編による、主体的に活動し、教科横断的な力を発揮する学習機会の創造

#### 具体的取組

- ・授業研究会を実施および互いの授業を見合う研究体制の充実
- ・学習者目線における、学習の主体性の担保

- ・対話による学習機会の担保
- ・学習確認プログラムやデジタルドリルを活用するなどによる、自学自習の習慣化をめざすとともに、自らが必要とする学習課題を的確に選択して取り組む力の育成
- ・授業改善の取組から得られる「学力向上」を生徒の成長の一側面と捉え、指導を振り返る機会として学習確認プログラムの確認テストを活用
- ・支援を要する生徒に対する学習習慣の定着や学力向上への取組の充実
- ・自らがそれぞれ課題を設定する機会を創造するとともに、自らの課題を他者の協力を得て解決していく学習活動、または、他者の課題を協力者となって解決する学習活動の場の創造と充実

## (2) 「豊かな心」の育成にむけて

### 重点目標

- ・生徒一人一人の自尊感情の高揚
- ・互いの違いを認め合い、支え合うことのできる生徒の育成
- ・生徒会や学年、学級づくりを中心に、高め合う集団づくり

### 具体的取組

- ・「させる生徒指導」から「支える生徒指導へ」の転換
- ・「自尊感情」を高めることをねらう異学年交流の推進
- ・正しい言動がとれる生徒の育成をめざし、対話をもとにした一人一人の心に寄り添う指導・支援（「北風」ではなく「太陽」となる。）
- ・教員からの説諭は短く、生徒への問いかけ・提案を重視し、生徒に内在する思いを引き出す指導
- ・「主体性」を高め、自律的活動力を育成する生徒会活動の推進
- ・生徒指導の4つの視点（自己決定・自己存在感・共感的人間関係・安全安心な風土の醸成）に基づく学級経営・授業づくりによる自己指導力の向上
- ・自身が考え、他者と議論し、自身を見つめ直す機会となる道徳の時間の充実
- ・デジタルシティズンシップ教育、情報モラル教育の推進
- ・全生徒を「できる存在」として捉え、個別に有効な教材や指導法、ICTの活用等を通じた、個に応じた支援による内面の安定をめざす取組の充実
- ・育成学級と普通学級において、生徒間の連帯感の高揚や共生社会に向け共に学び合う意識の育成をめざした交流学习の推進
- ・普通学級の生徒に対しても支援教育の視点にたった、個や集団への配慮となる CCQ の実践（C:Calm、C:Close、Q:Quiet…「穏やかに、近くに寄って、静かに」）

## (3) 「健やかな体」の育成にむけて

### 重点目標

- ・体と心の健やかな調和をめざした望ましい生活習慣や体力の向上をねらう取組の充実
- ・小中一貫高野中ブロックにおけるセーフスクールの取組の推進

### 具体的取組

- ・「いのち」についての指導の充実
- ・食物アレルギーのある生徒の学校生活における安心・安全のため、正しい知識や対応についての研修
- ・救急救命等緊急の対応を要する事案に対する訓練の実施
- ・「性に関する教育」の発達段階に応じた計画的な推進
- ・自らの生活習慣や健康・安全を振り返る機会としての生活アンケートの定期実施
- ・非行・飲酒・喫煙・薬物乱用を防止する教育実践や「命のがん教育」の推進